

福島県しらかわ和牛改良組合

東京農業大学 名誉教授 新井 肇

1. 地域の農業と肉牛飼育

白河市にある当改良組合の前身は農協の繁殖牛生産者部会で、平成 5 年に和牛改良組合に改組した。会員は JA しらかわの組合員で構成され、農協の強力なバックアップを受けて運営されている。

農協の農産物販売高から地域農業の性格を見ると、蔬菜 24.4 億円、米穀 21.1 億円、畜産 5.5 億円の順となっている（平成 17 年度）。畜産のほとんどは肉用牛で、肉牛（肥育牛）2.57 億円、和牛子牛 2.49 億円とほぼ 2 分している。しかし戸数では肥育は約 20 戸で、繁殖の 4 分の 1 程度に過ぎない。

会員のほとんどは稲作、野菜作などとの複合経営である。平均飼育頭数は 8.4 頭、県平均 4.9 頭より大きく、県下 18 農協中で 4 位、比較的多頭化がすすんでいる地域である。繁殖専門の大規模農協や一貫経営が少なく、また高齢者の経営が多いところから、経営の方向は付加価値を高める方向へ、すなわち「量より質」を重視してきたと言える。

ここでも飼育戸数は年々減少し、平成 7 年の 147 戸は現在（同 17 年）83 戸（56.5%）となっている。しかし、近年、繁殖雌牛頭数は 700 頭弱の水準を維持し、子牛出荷頭数も約 500 頭で現状維持を続けている。平成 7 年と比較すると、飼育頭数は 8.1%増、出荷頭数は 6.1%増とわずかながら産地規模は拡大している。

2. 組合事業の特色

このように戸数は減退しても頭数を維持できた要因は、農協と改良組合が一貫して追及してきた繁殖雌牛の量と質の確保対策にある。そのひとつは「優良雌牛自家保留促進事業」で、管内産の優良雌牛を管外流出させないで地元で繁殖雌の候補牛として確保するよう奨励する事業である。子牛産地の宿命として、よい産子が生まれても、市場価格に釣られて流出しがちである弊害を断ち切ることが目的である。

優良牛とは主に系統のよい牛で、毎年、会議で決定し、年 20～40 頭が助成対象となる。保留雌牛の父牛は北国 7-8、高栄から始まり、最近では平茂勝や福栄が中心になるなど、年により変化してきている。助成額は現在、1 頭 25,000 円であるが、これは毎年指定される 5 つの系統（今年では平茂勝、北国 7-8、福栄、美津福、安平照）の雌牛の場合で、他の系統は 20,000 円、さらに自家保留でなく、管内保留（管内産優良雌牛を管内農家が購買した場合、ただしセリを通したもの）の場合も 20,000 円というように差がある。市場開設者である全農は市場出荷雌牛の中から優良牛（発育、血糖のよいもの）を選抜してその出荷者に 30,000 円の奨励金を出しているため、合わせて 50,000 円が交付されることもある。

もう一つは「優良基礎雌牛導入事業」で、これは県外産の優良牛を導入したときに同じ

ように助成するもので、その実績頭数は「自家保留」を上回っている。助成額は1頭20,000円、この場合はとくに血統を問わないことになっている。

両事業とも、助成金の財源は子牛出荷時に組合員が拠出した自主財源であり、自治体などの補助によるものではないところに特長がある。組合員は子牛販売代金の0.5%を納入し、基金を造成する。このため子牛価格が低落すると基金に不足を生ずるので、欠損を出さないように毎年助成額を検討して調整している。

また国の家畜改良センタが地元にあることから事業団の産肉能力平準化事業に積極的に参加して、質の向上に努めている。

3. 活動の評価と課題

この組合の子牛出荷成績を同じ市場に出荷している18農協と比較してみると、①飼育戸数は9位だが1戸当たり頭数が4位であるため、子牛出荷頭数は5位と高く、県下上位の子牛産地となっている。②子牛1頭当たり販売金額は全県平均の502千円より2.2%高い513千円で県下6位。③これを性別に見ると雌10位、去勢2位と差があり、去勢の価格がとくに高い。④去勢の1頭当たり販売額は県下の541千円に対し、563千円で、4.1%高い。しかし生体1kg当たりでは県平均より高いものの、順位では8位に落ちる。これを体重が大きいくことでカバーして1頭当たり販売額が2位になっているのである。体重は306kgで、県平均の298kgより2.7%大きく、県下3位となっている（ちなみに日齢は4位となっている）。

収益性について2事例を挙げると、A経営（7頭飼育）の子牛1頭の所得は32万円、B経営25～30万円で、所得率に直すと、それぞれ61.5%、50～60%となる。この計算は子牛が50万円で売れた場合が前提なので現在のように60万円台になってくると、さらに高所得となる。小規模で高収益は達成したが、今後の課題は利益率は多少低くても多頭飼育で安定収入の得られる中核的な経営を作り出してゆくことにある。



Yさん（7頭飼育）の庭先にある繁殖牛舎



Tさん（22頭飼育）の自宅から離れた所にある簡易牛舎。金を掛けないことに徹している。



Tさんの簡易牛舎



Tさんの簡易牛舎



しらかわ和牛改良組合の吉田昭一組合長



改良組合支部長の丹内賢夫さん